

伊勢神宮崇敬会長賞

富山市立堀川小学校 五年 舟崎 知世

『感謝の気持ち』

「ジャリン」とお鈴をならすたびに、わたしは幸せな気持ちでいっぱいになりました。

一月一日、わたしは神明社で巫女舞を奉納していました。神社の拝殿には、初詣に多くの人が集まっていました。

巫女舞とは、神に仕える女性、すなわち巫女が、神と一体となって人々をみちびくための「神がかり」の儀式のときに行われた動作が変化し、儀式化されたものです。

わたしをふくめた小学生三人は、お正月に奉納する巫女舞のおけいこを十一月の頭から始めました。巫女舞に参加するのは今回で二回目です。祭りのときは巫女舞が何かも知らず、母にすすめられて始めましたが、今回は自分からやりたいと言いました。わたしは一年生のときかたチアリーダーングを習っていましたが、チアの速い動きとはちがうゆっくりとした動作がおもしろいと思っただけです。夏からメンバーも変わり、ふりつけもむずかしくなったので、いっそうやりがいを感じて練習を始めました。先生は、できているところはほめ、直した方がいいところはしっかり教えてくれるので、その日のうちに覚えるよう集中しておけいこに取り組みました。うでをのばすところと、三人の動きを合わせることを特に気を付けました。練習回数は多くなかったけれど、自主練習し、十二月半ばには自分でも自信をもてるようになっていました。

ところが、十二月二十六日、先生との最後のおけいこを夕方に予定していた日の午前中に、学校で長縄練習がありました。縄をとぼうとしてジャンプしたときに右足をひっかけ、ひざを強く打ってけがをしてしまいました。その日はひざを曲げる動きを省いて練習しましたが、痛みが完全にとれるまでしばらく時間がかかると言われました。本番まで一週間ありませんでしたが、絶対に舞うぞという気持ちがあったので、ひざを冷やすなど早く治す努力をしました。

そして元日の日、無事に浦安の舞を舞うことができました。ほっとしてとてもすがすがしい気持ちになりました。見に来てくれた家族や友人もとてもよろこんでくれました。少し痛みはありましたが、神様や周囲の人たちが支えてくれたおかげで舞を奉納できたのだと思います。

これからもこんなことがあっても感謝の気持ちを忘れずに努力し、あきらめないことが大切だと学びました。巫女舞に参加することで、神様を身近に感じるきっかけになりました。おけいこをしてくれた先生、巫女舞の当日まで支えてくれた周囲の人たちにお礼を言いたいです。